

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400476		
法人名	社会福祉法人 縁むすび福祉会		
事業所名	グループホーム大社 (結)		
所在地	島根県出雲市大社町中荒木2617-85		
自己評価作成日	令和元年8月20日	評価結果市町村受理日	令和元年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地			
訪問調査日	令和元年9月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方も高齢になられ、日々の体調面に留意しなければいけない方も増えてきました。体調について変化があればすぐにかかりつけ医に相談したり、往診時に相談をしたりし、利用者の方に安心・安全に暮らしていただける様に努めています。日常生活においても、食事の準備や片付け、洗濯物たたみ等をしていただいたり、定期的に外出支援を計画したりし、活動的に生活をしていただいています。

また、職員の年齢層についても若い職員が多く在籍しており、国家資格の取得に向けて挑戦したり、積極的に研修に参加したりし、職員の質の向上にも日々取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

中心市街地に近い住宅地の外れの平地に位置しており、交通量の多い道路に面しているが比較的静かな環境にある。平成16年に開所してから年数も経過しており、大半の職員は入れ替わっている。ここ数年でも管理者を含めて何人かが代わっている現状があるが、若い職員も多く、新しい管理者の元、何事にもチームワークよく取り組んでいる姿勢が伺える。担当を中心に個々の利用者に目を向け、ケース記録の内容も詳しく記入されていることから、より充実した介護計画作成に繋がっていただきた。今後は地域密着型の施設として、会議の場等を利用して少しでも多くの方々と関われる場面を作ること、有事の際の協力体制に繋がるような取り組みに期待したい。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に基本理念を掲げており、会議や朝礼等で日々のケアについて話し合いの場を持ち、実践に向けて取り組んでいる。	開所時に作成した理念を継続中だが、管理者を含めた職員の異動等もあり、若い職員も多いことから、より身近に感じて動けるよう分かりやすいものを作成する意向を持っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーに買い物に出かけたり、外出支援をしたりし、馴染んだ地域や人々といつまでもふれ合いが保てるように支援している。	中学生の体験学習や介護実習生の受け入れなど積極的に行っている。より地域との交流を深めるために、地域コミュニティに出向いたり、近くの保育所へ訪問の声がけをすることとしている。	施設側からの発信に努めることで、地域との関係が深まるような取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で取り組みを発表している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、サービスの状況の報告や説明を行い、行政、家族からの意見をもとに質疑応答をし、取り組みへ活かしている。	地域からは民生委員、行政からは包括や市の担当課の職員に加え、家族の代表の参加を得て定期に開催している。利用者状況や行事の様子を伝え、意見を聞くようにしている。	より多くの関係者の参加で会議が開催されるよう検討いただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場で、市町村のあんしん支援センター、民生委員と共に意見交換の場を設け、意見などを提案してもらっている。	運営推進会議には毎回参加があり、行政からの情報を得て協力関係を築くように取り組んでいる。認定調査時や生活保護担当との関わりもあり、介護保険関連の情報を得るなど、いい関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議内において、認知症の方々の障害、周辺症状を理解し、傾聴し安全に配慮した取り組みを行い学びを深め、共有している。	日中は事業内の鍵をかけることはなく、自由に入出入りできるようにしている。帰宅願望のある方の場合も一緒に散歩するようにしている。家族希望でセンサーマットを使用しているケースもあるが、時間を区切ったり最小限の利用の仕方を検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議内において研修を行い、学ぶ機会を設けている。また、ヒヤリハット等を確認しながら利用者の方の心身の状態に気を配っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	生活保護の利用者も入居中で、家族や手続きによる対応を説明し職員の理解へつなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	職員が十分な説明を行い、家族が納得するまで説明をし、不安の解消に努めている。また、日々家族が来訪時には不安点などをお聞きし取り組みへつなげている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、市町村、あんしん支援センター、民生委員も出席し、家族の意見は周知している。	毎月利用者個々の様子を生活、健康、エピソードに分け記入し家族関係者に送っており、様子がよくわかると好評を得ている。年に1回家族会も実施し関係を深めるよう努めたり、面会時にも意見を得よう声がけしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンス、職員会議で意見交換発表の場を持ち、リーダーを中心としチームで意見を出し合っている。	管理者はヒヤリハットが出た時に朝礼や申し送りの時間を利用し意見を聞くようにしている。意見が言いやすい雰囲気にも配慮しており、各ユニットの会議でも多く意見が出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	新人職員には不安な事は尋ね、指導表を作成ながら円滑に指導できるように努めている。また、希望の休みが取れるよう、相互に協力しあう等、働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修には、実践者研修や権利擁護推進研修等の研修に積極的に参加できるよう取り組んでいる。また、職員会議の場でも研修内容を発表する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会や事例発表などの勉強会に積極的に参加し、他の事業所の取り組みを学び、質の向上につなげている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に今までの状態を情報収集し、家族に現在までの様子などを聞き取りを行い本人にも不安な事がないか聞き取りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時には、ご家族からの質問、意見をしっかりと聞き、安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前後はご家族、本人ともに不安も高まっているため、環境用具など様々な点から、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の得意な事を見極め、日々の生活において活躍していただける場面作りに心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月一回の手紙で利用者の方の生活の様子や、ケアの取り組みを報告したり、日々の来訪時に気軽に話ができる環境作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の際に馴染みの場所に出掛けたり、知人の方が来訪されたりと関係が途切れない様に努めている。	在宅時に通っていたスーパーやなじみの店にはできるだけ出かけるようにしている。知り合いや友人の訪問時には落ち着いて話ができるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団生活のため、意見が合わず孤立する利用者は、職員が傾聴したりする等の対応を行い、仲を取り持っている。また、利用者同士の関係性について、職員が情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、必要に応じて情報の提供、家族との話し合いを行うように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを担当中心に把握し、カンファレンス等で本人の意向に沿ったケアができるように努めている。	ちょっとした変化や普段と違う行動が見られた場合には気を付けて観察し、個々のケース記録に細かく記入するようにしている。家族関係者の面会時には日ごろの様子を伝え意見要望等を聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの継続のため、本人や家族からの情報、他事業所からの情報を得て、馴染みの暮らし方ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の言葉や行動、体調などを記録、共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人の思いを理解した上で、より良く暮らすための課題とケアのあり方をカンファレンスにて担当者を中心に話し合う機会を設けている。	担当者会議に本人、家族関係者の参加は多くないが、担当制で担当職員を中心に様子の把握に努め、ユニットカンファレンスでは関係者で意見を出し合い現状に沿った介護計画を作成するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録や業務日誌を通して、就業前に必ず目を通すようにし共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調に変化があった場合は、主治医に往診を依頼し、日々の体調の変化などにも柔軟に対応できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域社会の資源を把握し、豊かな暮らしができるように社会資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切にしながら、かかりつけ医や複数の医療機関を受診ができるように支援している。	往診可能な協力医に変更することも、以前からのかかりつけ医を継続することもできるようになっており、入所時に決めてもらうようにしている。協力医には夜間や緊急時等にも支持が得られようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調や表情の変化があれば、都度、看護師に伝え、適切な 処置や受診等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は、病院へ介護情報を提供したり、定期的な面会を行ったりし、病院との情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、家族と話し合いの場を設け、家族の意向を踏まえて主治医と相談し、今後の介護サービス利用について共通の認識を持ち支援している。	新しい管理者は今まで重度化や終末期に受けた方針が明確になっていなかったため、訪問看護等の利用も含めて方針をはっきりさせる意向を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内に緊急時のマニュアルを常備し、全職員が確認できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中を想定した避難訓練を定期的におこなっているが、夜間を想定した避難訓練も行う必要がある。	環境的には自然災害の被害を受けにくい場所に位置しているため、主に火災を中心に定期的に避難訓練を実施している。今後は地域との関係を深めることで、実践に添った形になるよう検討する意向。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護についての研修を行い、スピーチロック等に配慮しながら、言葉かけや対応を行っている。	外部研修に参加したり事業所内部でも研修を行うようにしている。ケアの基本として声かけは丁寧に意識して、お互い気を付けるよう会議の場でも話している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日のお茶の時間の飲み物や、入浴時間について利用者の方の希望を聞きながら、サービスを提供している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切にし、日常生活のリズムも本人のリズムで過ごしていただいている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに気をつけ、自分が思うようにできない方は手伝いをしている。着たい衣類も選んでいただいている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の方と一緒に準備や片付けをし、利用者の方がそれぞれの力を発揮していただけるように努めている。	調理の作業と一緒にできる方は以前より少なくなってきたが、洗い物を手伝う方はある。調理担当の職員を配置し副食に外注の食品等も利用しながら、好みを聞くようにして提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録し記録し、食べる量や栄養バランスを確認している。水分摂取が難しい場合は、ゼリーなどを提供し水分確保に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きやうがいの声掛けを行い、介助が必要な方は職員が介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を共有し、排泄パターンの確認、排泄の声かけにより、オムツの使用を減らせる様に支援をしている。	個々の排泄パターンの把握に努め、適時声がけしながら、スムーズな排泄に繋がるようにしている。尿量に合わせたパットの利用とか排泄時の臭いにも注意するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に対し、水分補給や乳製品を摂取し、下剤に頼らないように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間に希望のある方は、希望される時間に入らせていただいている。	職員の体制により希望に沿った支援ができない時もあるが、週に2から3回入浴できるようにしている。家庭用浴槽のため重度化への対応は難しいこともあるが、できるだけゆっくり入浴を楽しめるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠の為に日中は体調をみながら適度に活動をしていただくように支援し、昼夜逆転しないようにサービスを提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬の一覧表を薬置場に設置し、処方と効果の確認を行なえるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的に外出支援を行い、単調な生活にならないよう、好きなことをできる環境作りをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と外泊したり、花見や菖蒲祭り、紅葉狩りなど季節に応じた場所に外出したりと戸外に出掛けられるようにしている。	花を見に行くなどの外出行事については計画的に実施している。少人数ずつで買い物などに出かけたり、天候のいい時期には、施設回りや近所までの散歩は日常的に行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を支払う時は職員が代わりに支払うようにしているため、希望や力に応じて所持したり使っていただくように支援する必要がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に自分で電話できない人は職員が代わりに電話し、話せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音量は小さくしたり、共用空間のテーブルには花を飾ったりし、心地よい空間づくりを行っている。	幹線道路に面しているが、建物の中は静か。事務所を中心に左右対称の造りになっており、どちらにも中庭があり明るい。季節の花を飾ったりして、ソファ等に座りくつろげるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で、仲良くソファに座り、お話をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用しておられた馴染みの家具や、使い慣れた物を持ってきていただいている。	家で使っていた物の持ち込みを勧めている。、あまり多くは持ちこまれていないが、小型の仏壇やテレビ、椅子を置いたりしてゆったりくつろげるようにしている。ベッド等動線にも配慮するようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には表札を設置し、トイレの戸には「トイレ」と分かりやすい文字の大きさに掲示している。		